



2022年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月14日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社エスユーエス
 コード番号 6554 URL <https://www.sus-g.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 公男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼最高財務責任者 (氏名) 浅田 剛史 (TEL) 075-229-7400
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第1四半期の連結業績(2021年10月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第1四半期	2,529	11.7	181	—	210	50.7	142	48.6
2021年9月期第1四半期	2,265	△1.6	△8	—	139	△32.7	96	△30.8

(注) 包括利益 2022年9月期第1四半期 131百万円(50.4%) 2021年9月期第1四半期 87百万円(△36.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第1四半期	16.19	15.49
2021年9月期第1四半期	10.92	10.43

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第1四半期	4,195	2,910	68.2
2021年9月期	4,237	2,840	65.6

(参考) 自己資本 2022年9月期第1四半期 2,859百万円 2021年9月期 2,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2022年9月期	—	—	—	—	—
2022年9月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の連結業績予想(2021年10月1日~2022年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,042	8.2	208	110.8	267	△29.4	165	△34.8	18.81
通期	10,775	14.4	601	208.4	668	3.0	423	△5.4	48.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年9月期1Q	8,832,800株	2021年9月期	8,817,200株
② 期末自己株式数	2022年9月期1Q	184株	2021年9月期	184株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年9月期1Q	8,825,549株	2021年9月期1Q	8,805,149株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に対する各種政策効果により、企業活動や経済活動に持ち直しの動きが見られました。一方、新型コロナウイルス感染症の変異株の発生やインフレ懸念等、予断を許さない状況にあります。

このような中、当社のソリューション事業においては、派遣業務、請負業務ともに増加しました。さらに、コンサルティング事業、AR/VR事業においても受注を獲得し増収となりました。一方で、人件費及び採用広告費等を中心に販売費及び一般管理費は増加しました。営業外収益では、雇用調整助成金が減少しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,529,714千円（対前年同期比11.7%増）、営業利益181,033千円（前年同期は8,002千円の営業損失）、経常利益は210,601千円（対前年同期比50.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益142,870千円（対前年同期比48.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

① ソリューション事業

技術者派遣は、在籍技術者数については前連結会計年度に採用抑制を行った影響等により減少しました。一方、当第1四半期連結累計期間において新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であり、稼働率が前年同期より大幅に改善したこと等により、売上高は前年同期比で増加しました。また、継続的に技術社員の教育等による高付加価値化に取り組み、派遣単価の向上に努めてまいりました。

請負業務は、プロジェクト単位及びチーム体制での受注を踏まえ、積極的に受注拡大に注力いたしました。その結果、製造請負においては、既存取引の中でも半導体関連で受注が拡大しました。IT請負においては、新規取引の受注が堅調に推移しました。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は2,328,624千円（対前年同期比11.2%増）、セグメント利益は211,816千円（対前年同期比324.1%増）となりました。

② コンサルティング事業

システムコンサルティングサービス市場は、SAPをはじめとした既存の大規模基幹システムにおいてIT基盤の統合・再構築が企業の重要課題とされ、市場における新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であり、当社が携わるクラウド系基幹システムであるSAP S/4 HANAを中心に拡大傾向となりました。こうした案件状況に対して、自社ITコンサルタントの育成及び増員に加えて協力会社の外注要員を活用し、チームでの対応体制を整えるとともに、大型案件ヘリソースを集中いたしました。その結果、前年同期比で増収増益となりました。

タレントマネジメントシステム「SUZAKU」を中心としたHRコンサルティングの売上高は、前年水準となりました。

これらの結果、コンサルティング事業の売上高は166,855千円（対前年同期比9.8%増）、セグメント利益は19,211千円（対前年同期比115.8%増）となりました。

③ AR/VR事業

AR/VR事業は、AR（拡張現実）、VR（仮想現実）、AI（人工知能）と言われる第4次産業革命に対応する取り組みとして、AR/VRエンジニア及びAIエンジニアの育成、企業や教育機関が求めるAR/VRコンテンツやプラットフォームの販売及び開発、最先端AI研究の第一人者であり、データサイエンティストである研究所長のもと進めているAI技術の研究と、技術者派遣事業で培ったエンジニアの技術により、自社商品・技術・サービスの開発及びAI受託等を目的に事業を行っております。当第1四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症による行動制限等からメタバースへの関心が高まり、教育機関を中心にVRツアー及び仮想空間を用いたコミュニケーションツール等の受注を獲得しました。加えて、AR/VRエンジニアの育成を行うVRIA京都（VRイノベーションアカデミー京都）において、AR/VR専門家育成プログラムを開講し、受講いただきました。

AI関連の取り組みでは、AIデザイナー講座を開講し、受講いただきました。

これらの結果、AR/VR事業の売上高は22,394千円（対前年同期比350.2%増）、セグメント損失は47,075千円（前年

同期は70,633千円の損失)となりました。

④ その他

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく特例子会社である株式会社ストーンフリーの売上高は、就労移行支援事業の利用者が減少したこと等により、前年同期比で減少しました。

これらの結果、売上高は11,839千円(対前年同期比16.0%減)、セグメント損失は2,918千円(前年同期は3,786千円の利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は4,195,801千円となり、前連結会計年度末より41,672千円の減少となりました。流動資産合計は3,657,314千円となり、前連結会計年度末より57,435千円の増加となりました。これは主に現金及び預金が31,084千円増加、前払費用を含むその他流動資産が15,656千円増加したことによるものであります。固定資産合計は538,487千円となり、前連結会計年度末より99,108千円の減少となりました。これは主に繰延税金資産を含む投資その他の資産が78,079千円減少したことによるものであります。

② 負債の状況

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は1,284,870千円となり、前連結会計年度末より112,458千円の減少となりました。流動負債合計は1,245,119千円となり、前連結会計年度末より105,888千円の減少となりました。これは主に未払金が218,440千円増加した一方で、賞与引当金が283,476千円減少、未払法人税等が135,168千円減少したことによるものであります。固定負債合計は39,750千円となり、前連結会計年度末より6,569千円の減少となりました。これは主にリース債務を含むその他固定負債が6,582千円減少したことによるものであります。

③ 純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は2,910,930千円となり、前連結会計年度末より70,785千円の増加となりました。これは主に配当実施の一方、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、利益剰余金が81,150千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の連結業績予想につきましては、2021年11月12日に公表いたしました予想値から変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響は、2022年9月期は上期中に軽微な影響は残るものの通期にわたってコロナ前の水準に回復する、という前提のもと、2022年9月期の連結業績予想を作成しておりますが、今後、各種情報収集に努め、業績予想に変更が生じた場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,306,309	2,337,394
売掛金	1,187,613	1,191,104
仕掛品	6,089	13,292
その他	99,903	115,559
貸倒引当金	△37	△37
流動資産合計	3,599,878	3,657,314
固定資産		
有形固定資産	188,137	175,574
無形固定資産	136,148	127,683
投資その他の資産		
その他	314,264	236,184
貸倒引当金	△955	△955
投資その他の資産合計	313,309	235,229
固定資産合計	637,595	538,487
資産合計	4,237,474	4,195,801
負債の部		
流動負債		
未払金	616,590	835,031
未払法人税等	142,683	7,515
賞与引当金	283,476	—
その他	308,257	402,573
流動負債合計	1,351,008	1,245,119
固定負債		
資産除去債務	23,433	23,446
その他	22,887	16,304
固定負債合計	46,320	39,750
負債合計	1,397,328	1,284,870
純資産の部		
株主資本		
資本金	431,171	431,522
資本剰余金	526,816	527,167
利益剰余金	1,819,870	1,901,021
自己株式	△184	△184
株主資本合計	2,777,674	2,859,527
非支配株主持分	62,471	51,403
純資産合計	2,840,145	2,910,930
負債純資産合計	4,237,474	4,195,801

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
売上高	2,265,626	2,529,714
売上原価	1,825,964	1,861,332
売上総利益	439,662	668,381
販売費及び一般管理費	447,664	487,348
営業利益又は営業損失(△)	△8,002	181,033
営業外収益		
受取利息	4	1
助成金収入	156,311	31,541
その他	1,042	14
営業外収益合計	157,358	31,557
営業外費用		
支払利息	1,943	1,380
支払手数料	7,591	608
その他	33	—
営業外費用合計	9,568	1,988
経常利益	139,787	210,601
特別損失		
固定資産除却損	188	217
特別損失合計	188	217
税金等調整前四半期純利益	139,599	210,384
法人税、住民税及び事業税	1,036	1,147
法人税等調整額	50,929	77,434
法人税等合計	51,965	78,581
四半期純利益	87,633	131,802
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△8,541	△11,067
親会社株主に帰属する四半期純利益	96,175	142,870

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2021年12月31日)
四半期純利益	87,633	131,802
四半期包括利益	87,633	131,802
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	96,175	142,870
非支配株主に係る四半期包括利益	△8,541	△11,067

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当該会計方針の変更により四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

当該会計方針の変更により四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリュー ション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,094,645	151,911	4,974	2,251,531	14,094	2,265,626
計	2,094,645	151,911	4,974	2,251,531	14,094	2,265,626
セグメント利益又は損失(△)	49,940	8,904	△70,633	△11,788	3,786	△8,002

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリュー ション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,328,624	166,855	22,394	2,517,874	11,839	2,529,714
計	2,328,624	166,855	22,394	2,517,874	11,839	2,529,714
セグメント利益又は損失(△)	211,816	19,211	△47,075	183,952	△2,918	181,033

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、当社内の組織再編にあわせ、「技術者派遣事業」を「ソリューション事業」に名称変更しております。また、従来「その他」に含まれていた、タレントマネジメントシステム等を活用したHRコンサルティングサービス及びAI関連事業は、それぞれ「コンサルティング事業」、「AR/VR事業」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。